

No.	分類	質問等	回答
1	目的・必要性	目的は何か？	▼未来の世界を見据え、我が国や世界、地域社会の特性に対応しつつ、本市の持続的な発展のため、このまちに関わる人がうきうき・わくわくするまちにするためです。▼大学の本来の使命である教育研究と人材育成をグローバルスタンダードで実施し、知と人材の集積・交流機能を果たします。なお、短期的には地元への人材供給機能を目指しません。
2	目的・必要性	人材不足、若年層の流出、まちのにぎわいの低下といった課題への対応という当初の目的が変わっていないか？	▼いずれも本市が大学を考え始めたきっかけであることは事実です。これらに対する考え方は、北上市立大学（仮称）基本構想策定委員会における議論を経て深化しました。▼人材不足……短期的には人材供給機能を目指しません。したがって、地元就職者が一気に増えることは想定しません。しかし、教育研究フィールドである地域や企業を学生自らが見て、考え、体験することにより、人数は多くなくとも北上市を選ぶことが考えられます。▼若年層の流出……流出超過である高校卒業後の年代に関しては改善が期待されます。大学卒業後の年代に関しては、個々の決断によります。身に付けたことを翼にして、好きな方へ羽ばたくことを期待します。▼まちのにぎわい低下……学生約500名と教職員が学び、活躍します。加えて、他大学などの研究機関との行き来が生じるので、これまでなかなか本市に訪れる機会がなかった方々が来ることも期待されます。
3	目的・必要性	少子化・人口減少の中、北上市に大学が必要なのか？	▼少子化・人口減少だからこそ未来のために大学が必要だと考えます。▼少子化・人口減少は、本市の強みである産業にマイナスであり、まちの持続可能性、ひいては行政サービスの提供に影響を及ぼします。大学が行う研究教育活動は、本市の強みである産業を支え、まちの持続的発展に資すると考えます。
4	目的・必要性	メリットは何か？	▼未来の夢と希望、本市の持続的発展です。▼直接的なところでは、大学を活用した学び直し、市民講座、施設利用などが考えられます。▼副次的ではありますが、人材確保の機会の増加や交流・関係人口の増加、まちのにぎわいなども期待されます。
5	目的・必要性	デメリットは何か？	▼施設等整備に多額の支出を伴います。現時点の試算では、全体で約117億円を見込んでおり、このうち市負担は約83億円と試算しています。▼令和6年度中に行った各種説明会では、施設等整備費を約99億円と説明していましたが、当初想定していなかった大学院の設置と物価高騰を勘案した結果、現時点では約117億円と見込んでいます。
6	目的・必要性	奨学金制度の充実で良いのではないかな？	▼先行事例の研究が必要ですが、若年層の人口動態改善に対する手段の1つだと考えられます。しかし、目的は本市の持続的発展であり、これには教育研究機能が必要です。したがって、大学設置を目指しているものです。
7	目的・必要性	なぜ工学部なのか？	▼本市の強みである産業の質を高めることが、持続的なまちの発展につながると考えたからです。また、これまでの調査から、高校生と社会の意識、国の政策動向の共通項として「工学」があることを確認しています。
8	まちづくり	北上市の未来にとっての効果は何か？	▼最終的には、行政サービスの維持・充実です。耐え忍ぶだけでは、あらゆるものが縮減するだけと考え、まちづくりの次なる一手を打とうとするものです。
9	まちづくり	学生が市内、県内に定着するのか？	▼一義的には、個々の決断によります。したがって、この地域に定着するとは限りません。身に付けたことを翼にして、好きな方へ羽ばたくことを期待します。▼大学は“機会”です。何もしなければ、何も起きません。魅力あるまちにするための行動が必要であり、本市としても事例研究をするなどし、大学があるまちを考えます。
10	まちづくり	なぜ市街地に建てるのか？	▼学生や教職員にとってのアクセスの容易性を確保するためです。このことは大学成功の可否にも関わります。▼予定されている市街地再開発事業との相乗効果も期待され、また、国費の活用によって市の財政負担も軽減できます。
11	まちづくり	失敗した場合の責任の所在はどこか？	▼最終的な責任は市に帰属します。
12	制度	大学設置は国に認可されるのか？	▼定められた法令及び基準を満たしていれば認可されます。引き続き、国の動向を注視します。

No.	分類	質問等	回答
13	大学運営	学生は集まらないのではないかな？	▼県内の高校生に対しアンケート調査を実施し、妥当性ある数字として学生確保が見込めることを確認しています。▼魅力ある大学を実現し、それを発信することで、国内のみならず世界から学生が集まります。
14	大学運営	優秀な教職員を集められないのではないかな？	▼これまで本市にかかわっていただいた方々とのネットワークを起点に、優秀な教職・職員に来ていただけるよう行動します。▼具体的な計画づくりの際は、魅力的な研究環境やインセンティブを検討します。
15	大学運営	採算は取れるのかな？	▼試算の結果、採算は取れると見込んでおります。
16	大学運営	他の大学との差別化できる点はどこかな？	▼現時点の特徴は次のとおりです。①グローバルスタンダードの工学系教育と先端的研究の実践する、②時代の変化や社会の要請に対応した創造的な工学系人材を育成する、③地域企業、大手企業、他大学、小中高校等の外部組織と教育・研究において連携する、④大学のDX化を推進する、⑤学長の強力なリーダーシップによる大学経営を実現する▼次のステップである計画づくりの際には、具体的アクションを検討していくことになります。
17	情報発信	市民への説明や理解は十分か。説明不足ではないかな？	▼これからも説明を行ってまいります。情報発信についても、より届くような方法を検討します。
18	情報発信	市民が理解、判断する材料が十分でないのではないかな？	▼説明や意見交換等を踏まえ、不足している視点があれば随時追加してまいります。
19	情報発信	どのような大学であるか簡潔に表す必要があるのではないかな？	▼必要だと認識しています。次のステップである計画づくりで、検討します。
20	市他事業への影響	子育てや教育（小中学校）、他のインフラなど他のことにお金を使うべきではないかな？	▼例示の分野は、どれも重要あり、欠かすことはできません。一方、目の前のことだけではなく、未来に向けた取り組みが必要と考え、今回大学を検討しています。
21	市他事業への影響	医療や交通網、福祉の予算が削られるのではないかな？	▼大学のために、真に必要な予算をカットすることはありません。必要などころに、必要な予算を計画的に配分することは、行政として当然行っていくものです。
22	市財政	市の財政は大丈夫かな？	▼財政見通し上、大丈夫であることを確認しています。また、一度だけではなく、今後の変化も捉えながら、節目節目で確認してまいります。
23	市財政	税率が上がるなど市民負担が増すことになるのではないかな？	▼大学のために税率をあげることはありません。
24	市財政	整備費が大幅に膨らみ、出来ないと判明したら、止められるのかな？	▼仮に設計額が現在の試算から大幅に上振れしたときは、公表し、再検討することになります。